

「X」3月3日(木)小田原宿・小田原城歴史見聞

—小田原駅9:00集合；JR東海道線「小田原駅」改札口9時50分厳守同時出発）
行程；小田原駅→外郭土塁→江戸見附・一里塚→北条稲荷→明治天皇宮前行在所→
明治天皇本町行在所→松原神社→北村透谷碑→御感の藤→報徳二宮神社→小
田原城趾→小田原駅。

食事場所；「ふじ丸小田原駅前店」予約の場合、海鮮定食1500円／程。

TEL；0465-23-4270。

駅前通り「金時」円／1人TEL；0465-23-0721。

小田原宿

江戸時代、大久保氏1万3千石の城下町を兼ねた宿場として、箱根の山越え、関所を控えた宿場として大いに栄えた。宿場の町並み、板橋旧道、石畳旧道、豊臣秀吉小田原城攻め時築いた石垣山一夜城趾など貴重な史蹟がある。

小田原宿 石高、0（資料、天保14年、1843）家数1542・人口5404
（男2812・女2592）・旅籠95（大17中31小47）・本陣4脇本陣4
次の宿までの駄賃・人足賃銭（文）正徳元年（1711）荷物438・軽尻182・
人足218天保15年（1844）荷物657・軽尻429・人足327

○箱根宿；元和4年（1618）小田原・三島の両宿から各50軒ずつを芦ノ湖湖畔に移住させて開設。翌年「出女」の取り締まりの厳しさで有名な関所が設置されたと言う。箱根は街道1の難所、女転がし坂、西海坂、権現坂他その全域が旅人には過酷な急坂。雨が降ればすねまで埋まる泥道のため、竹道にかえられた。しかし、竹は毎年枯れてしまうため、石畳が敷かれた。

10:08 1647 北条氏政・氏照の墓（繁華街煉瓦通り一隅・2基五輪塔・後北条氏第4代小田原城主と弟八王子城主）

天正18年（1590）7月11日落城後、秀吉に自決を命ぜられた。本来なら当主氏直が責を負うところ氏直は家康娘婿だったので秀吉遠慮しての処置だろう。氏政53歳、氏照49歳。首は京に送られたが遺骸は此の地に氏寺の伝心庵（臨済宗、小田原市中町1-14）に葬られている。

10:12 162 なかしんばば（古くは馬場利用地？）

稲葉氏時代（1632～85貞享）には此处に12軒程の藩士屋敷があった。幕末には大久保藩士の屋敷として約16軒に増えている。

10:15 163 外郭土塁・太平洋戦争爆弾着弾跡（昭和20年8月13日小型機の空襲で30名に犠牲者新玉小、土塁着弾）

後北条氏時代の小田原城の外郭遺構。低地にあるものはこの土塁だけで、貴重なもの。後北条時代小田原城外郭土塁は城下町を包囲し周囲5里（約20km）にも及ぶ雄大なものであったと伝わる。

4・善照寺（真宗大谷派）

5・蓮上院（真言宗・花木山満願寺・本尊地藏菩薩・寺宝不動明王円珍作，十一面觀世音菩薩松原明神本地仏）

建長6年（1254）実證が当地城主の祈願所として開創。代々北条家の帰依を受けた。

6・江戸口見附；一里塚（公民館，松老木，小田原宿の東玄関口，江戸口見附跡，約84km）

7・山王神社（星月夜ホツキヨの社ヤシロ・祭神大山祇オホヤマミ命，小彦名命，大山咋オホヤマノミ命・月夜野の井田地移転・旧海辺南袖ヶ藪，崩壊）

明応4年（1495）北条早雲は城主大森藤頼破り小田原城手中相模の国平定，社は北条家郭内で山王曲輪と称し袖の池南袖ヶ藪にあったが崩壊，慶長18年（1613）現地に移転。宗福寺（曹洞宗）。

8・北条稻荷と蛙石（カズ・蛙石明神稻荷末社・元小田原城内庭上にあり小田原に異変あると必ず鳴くと伝う）

北条氏泰に死去を老弧の祟りと考えた，その子氏政が社を建ててその老弧を祀り，守護神として崇めました，神社の境内にある蛙に似た蛙石（深さ一丈以上）は後北条氏小田原落城前夜，夜鳴きしたと伝えられる。

9・古新宿町八代龍王神社

10・明治天皇宮前行在所跡（旧道本町信号手前。旧本陣，現古清水旅館。他に清水本陣，大久保本陣があった）

明治天皇が都合5回，宿泊された。

11・松原神社（市民会館前通り提灯型の街灯有り・小田原宿鎮守・祭神，大和武尊，素盞鳴命，宇迦之魂命・例祭4月14～16日・神紋左三巴・明治6年1月、旧足柄県県社及び郷社と定められた・関東大震災焼失昭和6年11月復興）

近衛天皇久安年中（1145～51）に勧請創建と伝う。後北条氏の深い庇護により，隆昌した。

12・小田原宿なりわい交流館昭和7年網間屋再整備平成13年9月お休処として開館無料

13・徳常院（曹洞宗・竜珠山・本尊虚空菩薩立像・寺宝青銅製正徳3年延命地藏菩薩大田正義作露座大仏）

元和元年（1615）至明良順の開創。嘉永元年（1848）19世素岳大童が再興。昭和39年本堂再建今日に至る。境内に，片足を下げる寺宝，延命地藏尊と呼ばれる，総身5m，8百貫もの青銅製露座大仏。

14・明治天皇本町行在所跡；旧本陣片岡永左右衛門宅。明治11年11月7日に明治天皇が宿泊された。

15・ういろう本舗（箱根口バス停手前・TEL0465-24-0560）

現在八棟造の建物が復原新築。500年の伝統を誇る全国最古の薬屋。起源は応仁

城山公園 11:22~25 城内へ
三の丸学校 馬場内

の乱「応仁元～文明9年（1467～77）足利将軍、管領畠山・斯波（シバ）・室町守護大名）両家相続問題で東軍細川勝元、諸大名対西軍山名宗全（8ヶ国守護職）、諸大名とが京都を中心に対抗し戦乱となり幕府の権威失墜した」後、元から亡命した陳延祐（チンエンユウ）で元朝に仕えていた頃は礼部員外郎（ワイロウ）だったことから外郎を名乗り京で薬を商った。髪臭を防ぐ「透頂香（トウチンコウ）・薬」で公卿（キョウ）間に好評を得た。小田原に下ったのは5代定治の時、性も宇野と改める。北条氏綱は500m四方もの広大な地所を与え薬業を営ませるほか、武士としても用した。

11:28 16・北村透谷の碑（平成22年11月現在他地への移転計画有り）・藤棚観光案内所

近代文学の先駆者、北村透谷の碑。碑文ならびに書は島崎藤村が、断崖作りのデザインは日本美術院同人牧野雄氏が手掛けた。

11:30 17・御感（ギョカン）の藤

明治の末、当時皇太子であった大正天皇が藤棚の花の見事さを激賞されたことから、「御感の藤」と呼ばれるようになった。藤は小田原名物。

11:35 18・報徳二宮神社（祭神、二宮尊徳翁・例祭4月15日・社宝二宮尊徳翁遺品・二宮翁夜話著福住正兄マエ翁碑・神紋丸に横木瓜・芸能筆祭1月1日・神徳景仰祭10月20日）

明治25年、相模・伊豆・駿河など近隣6ヶ国の尊徳社員の手によって創建。小田原が生んだ農聖、尊徳二宮金次郎（通称金次郎、名は尊徳、幼名・江戸末期農政家・天明7、1787～安政5、1858）を祀るため建てられた。

尊徳14歳、父利右衛門没、続いて母好（ヨシ）も没、一家離散やむなきに至る。本家万兵衛宅に引き取られ、勤儉努力の精神たたき込まれる。20歳で独立、10年後早くも4haの豪農になる。手腕認められ、小田原藩の家老服部家の財政整理を委託され、見事に達成した。此が藩主大久保忠真（タカマサ）の耳に入り、分家の下野（栃木県）桜町4000石、宇津家の再建以来された。懸命の努力の末、復興にこぎ着けた。その後烏山藩・谷田部藩・相馬藩などの再建を委託復興を成功させた。声望遂に老中水野忠邦をも動かし、直参として召され、天下の尊徳たらんとしたと伝う。

11:42 19・小田原城跡（天守閣、見聞館、共通600円・天守閣400円・見聞館300円・団体30人以上500円・昭和9年隅櫓ミヤガラ建設、同35年5月天守閣復元、同46年3月常盤木門、平成9年10月銅門完成・現在江戸時代末期曲輪取り基本に復元中）

室町時代（応永24年。1417）に大森氏の築いた山城が前身で、後戦国大名小田原北条氏の居城となった。関東支配の中心拠点として次第に整備拡張され、豊臣氏の来襲に備えた城下を囲む大外郭の出現に至って城の規模は最大に達し、前例を見ない居城に発展した。天正15年（1587）大修理。

小田原北条氏滅亡後、徳川氏譜代大名大久保氏が城主・江戸時代、三の丸以内規模で縮小されたが、稲葉氏の時代に大規模工事によって近世城郭に生まれ変わる。次いで大久保氏再度城主となり、東海道、箱根の関東地方防衛拠点として幕末。明治3年廃城方針が出、城内主要建物は解体され、国指定城址公園として現在も様々な整備が

続けられている。

○ウェルカムゾーン；戦国武将が出迎える。小田原の歴史を簡単に紹介。

情報ゾーン；小田原の観光名所をゲーム感覚で検索でき、選んだ場所の風景写真に自分の顔写真合成して、絵はがきシールにプリントアウト出来る（小田原検索100円）や、天守閣4階からの眺望をリアルタイムで上映す（小田原情報モニタ）等出口付近には小田原北条氏が公判に用いた「虎朱印」レプリカ記念スタンプ。

○北条五代ゾーン；北条早雲の国盗りを、影絵の紙芝居風の映像で紹介する「カラクリ紙芝居」や、北条氏泰の武名を高めた戦国時代の三大奇襲線の1つと呼ばれる「河越夜襲」を再現する「書き割り人形芝居」豊臣秀吉の小田原攻めに対抗するための軍議の様子を本物そっくりの人形が演じる「ミニシアター」など。

○江戸時代ゾーン；小田原城の歴史を眼と耳で楽しむ事が出来る。体験型情報館。館内の4ゾーンで構成され、小田原城の始まりから、現在に至るまでの歴史を模型映像で分かり易く説明する。

○天守閣；江戸時代模型図基に外観を江戸末期、内部歴史資料展示施設として昭和35年復原。3層4層の天守閣に多門櫓（ヤゲウ）・続き櫓を付した複合式天守閣。花鳥図（岡本秋暉筆市指定文化財、二の丸に藩主御殿）。

○天守閣模型；宝永年間の天守閣再建の際、検討用に作られた1/20の模型。

○常盤木門（トキギモン）；城本丸正面にあたり最も大きく堅固に造られていた。周辺に多聞櫓と渡り櫓を配した枳形門の構造をもち、側に有った巨松になぞられて此の名が付けられたと言う。昭和46年復原。

○銅門（アカギモン）・小田原城歴史見聞館；二の丸の表門にあたり、住吉橋を渡り、馬屋曲輪から二の丸へ通ずる大手筋に設けられた、櫓門・内仕切門及び土堀からなる枳形門。名由来銅板装飾。平成9年復原。

○幸田門跡；江戸時代は小田原城三の門の1つ。現在は道路や建物下に埋もれているが当時は小田原城の大手口と考えられる。

20・伝肇寺（デンショウジ・浄土宗・本尊、阿弥陀如来・寺宝、古文書7通、天正年間北条虎印捺印）

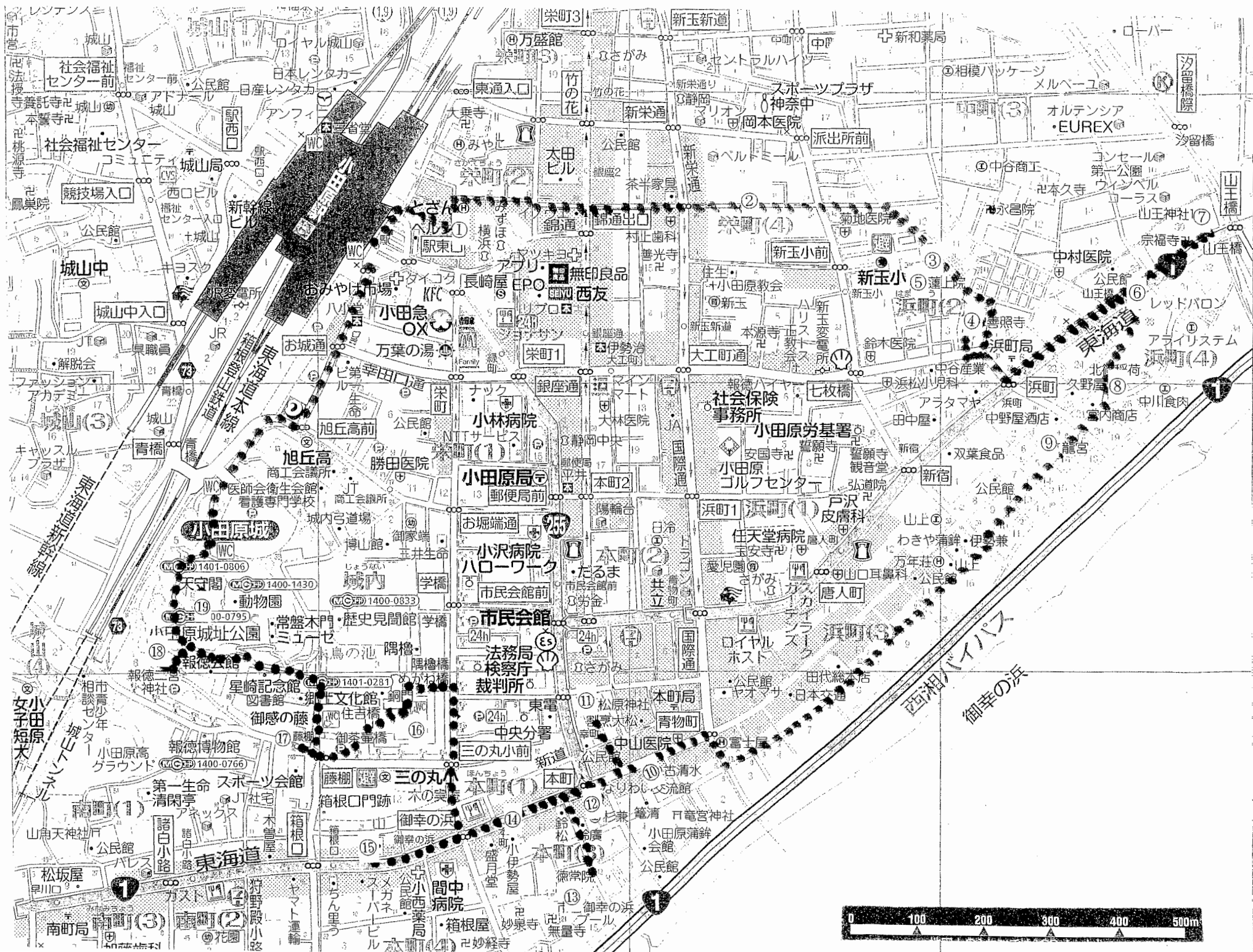
正安2年（1300）の開基で開山は惣蓮社嘆誉良肇。大正8年詩人北原白秋が寺の竹林に家「みみづくの家」を建て、創作活動に励んだ。白秋の活動を称え、現在、寺の境内には「赤い鳥」の祈念碑が建立されている。

21・大久寺（ダイクジ・日蓮宗・宝聚山随心院・本尊、三宝4菩薩・寺宝掛軸普陀巖上園通大士狩野芳巖筆、小田原城主大久保家一族墓所市史跡）

天正18年（1590）建立、小田原大久氏の氏寺。寛永11年（1634）現在地に移転。寺内の墓所に開基忠世をはじめ大久保氏の墓がある。

以上

ふじ丸 11:57 12:55 (解散)
小田原駅 13:22 (大船 15:54 着)
(快達)



小田原市街地図
Odawara city map



凡例

交通
R078.44(2)

 消防署
Fire Sta.

 郵便局
Post Office

 トイレ
Toilet

障害者用トイレ
Toilet for Disabled

街かど
Magikado













































内所

100

225

小田原

◆小田原市観光課 ☎0465-33-1521 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/kanko>

☎0465-22-5002 <http://www.odawara-kankou.com>

◆小田原駅観光案内所 20465-22-2339



～ゆっく
のんびり
前たんすん～
くらりん
レンササイクル 小田原

貸出所 小田原城歴史博物館 D-6 利用時間 9:00 ~ 18:00
 TEL 0465-22-5796 (貸出日 15:30まで)
 利用料金 1人1回 300円 休館日 年中無休、5/3、
 観望会 1,000円 祝日など休館
 (観望会は返却時に会場限定)